



# HTTP または HTTPS を使用したファイルの転送

Cisco IOS Release 12.4 には、Cisco IOS ソフトウェアベースのデバイスとリモート HTTP サーバーとの間で HTTP/HTTP セキュア (HTTPS) プロトコルを使用してファイル転送を行う機能があります。ファイルシステムプレフィックスを使用する Cisco IOS コマンドラインインターフェイス (CLI) コマンド (**copy** コマンドなど) で、送信元や宛先に HTTP や HTTPS を指定できるようになりました。

- [HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [HTTP または HTTPS を使用したファイル転送に関する制約事項 \(2 ページ\)](#)
- [HTTP または HTTPS を使用したファイル転送に関する情報 \(2 ページ\)](#)
- [HTTP または HTTPS を使用したファイル転送方法 \(2 ページ\)](#)
- [HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の設定例 \(10 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(11 ページ\)](#)
- [HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の機能情報 \(13 ページ\)](#)

## HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の前提条件

リモート HTTP サーバーへ、またはサーバーからファイルをコピーするためには、使用するシステムが HTTP クライアント機能をサポートする必要があります。この機能はほとんどの Cisco IOS ソフトウェア イメージに統合されています。HTTP クライアントはデフォルトでイネーブルになっています。現在のシステムが HTTP クライアントをサポートしているかどうかを判断するには、**show ip http client all** コマンドを発行します。このコマンドを実行できれば、HTTP クライアントがサポートされています。

埋め込み HTTP クライアントのオプション設定と HTTPS クライアントのためのコマンドも存在しますが、HTTP または HTTPS を使用したファイル転送機能を使用する場合は、デフォルトの設定で十分です。HTTP または HTTP クライアントのオプション特性の設定については、「関連資料」セクションを参照してください。

# HTTP または HTTPS を使用したファイル転送に関する制約事項

- **copy** コマンドの既存の制限（ネットワーク間のコピーができないなど）は、HTTP または HTTPS を使用したファイル転送機能でも有効です。



(注) Cisco IOS リリース 12.4T の **copy** コマンドは、古いバージョンの Apache サーバー ソフトウェアと組み合わせて動作させることができません。**copy** コマンドを使用するには、Apache サーバー ソフトウェアをバージョン 2.0.49 以降にアップグレードする必要があります。

- Cisco リリース 17.3.1 以降、TLS 接続は、ホスト名が証明書のサブジェクト代替名 (SAN) または共通名 (CN) と一致する場合にのみ確立されます。サーバーがこれらの期待を満たさず、無効な属性を送信した場合、TLS 接続が確立されないため、SSL ハンドシェイクは拒否されます。したがって、HTTPS コピーは成功しません。

# HTTP または HTTPS を使用したファイル転送に関する情報

HTTP または HTTPS を使用してファイルを転送するには、次の概念について理解しておく必要があります。

HTTP または HTTPS を使用したファイル転送機能は、Cisco IOS の **copy** コマンドおよびコマンドラインインターフェイスを使用して、リモートサーバーからローカルルーターデバイスへ、またはその逆の方向に、Cisco IOS イメージファイル、コアファイル、コンフィギュレーションファイル、ログファイル、スクリプトなどのファイルをコピーする機能を提供します。HTTP コピー操作は、FTP や TFTP など、他のリモートファイルシステムからのコピーと同じように動作します。

HTTP コピー操作では、HTTP セキュア転送に組み込み HTTPS クライアントを使用できるので、Public Key Infrastructure (PKI) のコンテキスト内で安全かつ認証されたファイル転送が実現されます。

# HTTP または HTTPS を使用したファイル転送方法

ここでは、次の手順について説明します。



- (注) 接続にユーザー名とパスワードを要求するサーバーとのHTTP接続では、HTTPを使用したファイル転送機能を使用するために、ユーザー名とパスワードの指定が必要な場合があります。デフォルト設定を使用できますが、カスタム接続特性を指定するコマンドも使用できます。接続とファイルの監視とメンテナンスのためのコマンドも準備されています。

## ファイル転送の HTTP 接続特性の設定

HTTP ファイル転送用に、デフォルト値が設定されています。次の作業では、接続特性を使用中のネットワーク用にカスタマイズし、使用するユーザー名とパスワード、接続プライオリティ、リモートプロキシサーバー、発信元インターフェイスを指定します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip http client connection {forceclose | idletimeoutseconds | timeoutseconds}**
4. **ip http client username username**
5. **ip http client password password**
6. **ip http client proxy-server {proxy-name | ip-address} [proxy-portport-number]**
7. **ip http client source-interface interface-id**
8. **do copy running-config startup-config**
9. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip http client connection {forceclose   idletimeoutseconds   timeoutseconds}</b> 例： Router(config)# ip http client connection timeout 15	すべてのファイル転送について、リモート HTTP サーバーへの HTTP クライアント接続の特性を設定します。 • <b>forceclose</b> : デフォルトの永続的接続を無効化します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>idle timeout seconds</b> : アイドル接続が許容される時間を 1 秒から 60 秒の範囲で設定します。デフォルト タイムアウトは 30 秒です。</li> <li>• <b>timeout seconds</b> : HTTP クライアントの接続待ち時間の上限を 1 秒から 60 秒の範囲で設定します。デフォルトは 10 秒です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>ip http client username <i>username</i></b> 例 : <pre>Router(config)# ip http client username user1</pre>	ユーザー認証を要求する HTTP クライアント接続で使用するユーザー名を指定します。 (注) CLI で <b>copy</b> コマンドを発行する際、ユーザー名を指定することもできます。その場合、そこで入力されるユーザー名がこのコマンドの設定を上書きします。例については、「HTTP または HTTPS を使用したリモートサーバーからのファイルのダウンロードの例」セクションを参照してください。
ステップ 5	<b>ip http client password <i>password</i></b> 例 : <pre>Router(config)# ip http client password letmein</pre>	ユーザー認証を要求する HTTP クライアント接続で使用するパスワードを指定します。 (注) CLI で <b>copy</b> コマンドを発行する際、パスワードを指定することもできます。その場合、そこで入力されるパスワードがこのコマンドの設定を上書きします。例については、「HTTP または HTTPS を使用したリモートサーバーからのファイルのダウンロードの例」セクションを参照してください。
ステップ 6	<b>ip http client proxy-server {<i>proxy-name</i>   <i>ip-address</i>} [<i>proxy-port</i> <i>port-number</i>]</b> 例 : <pre>Router(config)# ip http client proxy-server edge2 proxy-port 29</pre>	HTTP ファイルシステムクライアント接続のために HTTP クライアントをリモートプロキシサーバーに接続するよう設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• オプションの <b>proxy-port</b> <i>port-number</i> キーワードおよび引数で、リモートプロキシサーバーのプロキシポート番号を指定します。</li> </ul>
ステップ 7	<b>ip http client source-interface <i>interface-id</i></b> 例 : <pre>Router(config)# ip http client source-interface Ethernet 0/1</pre>	すべての HTTP クライアント接続の送信元アドレスにインターフェイスを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>do copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>Router(config)# do copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>do</b> コマンドを使用すると、グローバルコンフィギュレーション モードで特権 EXEC モード コマンドを実行できます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> 例 : <pre>Router(config)# end</pre> 例 : <pre>Router#</pre>	コンフィギュレーションセッションを終了し、CLI をユーザー EXEC モードに戻します。

## HTTP または HTTPS を使用したリモート サーバーからのファイルのダウンロード

HTTP または HTTPS を使用してリモート サーバーからファイルをダウンロードするには、次の作業を実行します。**copy** コマンドで、どのようなファイルでもコピー元からコピー先へコピーすることができます。

### 手順の概要

1. **enable**
2. 次のいずれかを実行します。
  - **copy** [/erase] [/noverify] **http://remote-source-url**local-destination-url
  - **copy https:// remote-source-url** local-destination-url

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例 : <pre>Router&gt; enable</pre> 例 :	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します (要求された場合)。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 2</b>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>copy</b> [/erase] [/noverify]  <b>http://remote-source-urllocal-destination-url</b></li> <li>• <b>copy https:// remote-source-url local-destination-url</b></li> </ul> <p>例 :</p> <pre>Router# copy http://user1:mypassword@209.165.202.129:8080/image_files/c7200-i-mx flash:c7200-i-mx</pre> <p>例 :</p> <pre>Router# copy</pre> <p>例 :</p> <pre>copy https://user1:mypassword@209.165.202.129:8080/image_files/c7200-i-mx flash:c7200-i-mx</pre>	<p>HTTP または HTTPS を使用して、リモート Web サーバーからローカル ファイル システムへファイルをコピーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>/erase</b> : コピー前にローカルのコピー先ファイルシステムを消去します。このオプションは、限られたメモリ容量のクラス B ファイル システム プラットフォーム用に準備されたもので、ローカルのフラッシュ メモリ スペースを簡単にクリアできます。</li> <li>• <b>/noverify</b> : コピーするファイルがイメージファイルの場合、このキーワードを使用すると、イメージがコピーされた後に発生するイメージの自動確認が無効化されます。</li> <li>• <b>remote-source-url</b> 引数は、コピーするファイルのコピー元の位置を示す URL (またはエイリアス) であり、標準の Cisco IOS ファイル システムの HTTP 構文では次のようになります。</li> </ul> <p><b>http://</b> [[username:password]@] {hostname   host-ip}[/filepath]/filename</p> <p>(注) オプションの <b>username</b> 引数および <b>password</b> 引数は、ユーザー認証が必要な HTTP サーバーにログインするときに使用され、グローバル コンフィギュレーション コマンド <b>iphttpclientusername</b> および <b>iphttpclientpassword</b> の設定により当該の認証文字列を指定する代わりになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>local-destination-url</b> は、コピーするファイルを置く位置の URL (またはエイリアス) であり、標準の Cisco IOS ファイル システムの HTTP 構文では次のようになります。</li> </ul> <p><b>filesystem</b> :[/filepath]/filename]</p> <p>(注) <b>copy</b> コマンド使用時の URL 構文についての詳細は、「その他の参考資料」セクションを参照してください。</p>

## トラブルシューティングのヒント

リモート Web サーバーからのファイル転送に失敗した場合、次の点を確認します。

- ルータとインターネットとの接続はアクティブか。
- 正しいパスとファイル名が指定されているか。
- リモート サーバーがユーザー名とパスワードを要求しているか。
- リモートサーバーに非標準のコミュニケーションポートが設定されていないか（HTTP のデフォルトポートは 80、HTTPS のデフォルトポートは 443）。

失敗したコピー要求の原因を判別できるよう、CLI はエラーメッセージを返します。コピープロセスについての追加情報は、**debughttpclientall** コマンドで表示できます。

## HTTP または HTTPS を使用したリモートサーバーへのファイルのアップロード

HTTP または HTTPS を使用してリモートサーバーへファイルをアップロードするには、次の作業を実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. 次のいずれかを実行します。
  - **copy [/erase] [/noverify] local-source-url/http://remote-destination-url**
  - **copy local-source-url https:// remote-destination-url**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>copy [/erase] [/noverify] local-source-url/http://remote-destination-url</b></li> <li>• <b>copy local-source-url https:// remote-destination-url</b></li> </ul> 例： <pre>Router# http://user1:mypassword@209.165.202.129:8080/image_files/c7200-i-mx_backup</pre>	HTTP または HTTPS を使用して、ローカルファイルシステムからリモート Web サーバーへファイルをコピーします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>/erase</b> : コピー前にローカルのコピー先ファイルシステムを消去します。このオプションは、限られたメモリ容量のクラス B ファイルシステムプラットフォーム用に準備されたもので、ローカルのフラッシュメモリスペースを簡単にクリアできます。</li> </ul>

コマンドまたはアクション	目的
<p>例 :</p> <pre>Router# copy flash:c7200-i-mx http://user1:mypassword@209.165. 202.129:8080/image_files/c7200-i-mx_backup</pre> <p>例 :</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>/noverify</b> : コピーするファイルがイメージファイルの場合、このキーワードを使用すると、イメージがコピーされた後に発生するイメージの自動確認が無効化されます。</li> <li>• <b>local-source-url</b> 引数は、コピーするファイルのコピー元の位置を示す URL (またはエイリアス) であり、標準の Cisco IOS ファイルシステムの構文では次のようになります。</li> </ul> <p><b>http://</b> [[<i>username:password</i>]<b>@</b>] {<i>hostname</i>   <i>host-ip</i>} [<i>filepath</i>]/<i>filename</i></p> <p>(注) オプションの <b>username</b> 引数および <b>password</b> 引数は、ユーザー認証が必要な HTTP サーバーにログインするときに使用され、グローバル コンフィギュレーション コマンド <b>iphttpclientusername</b> および <b>iphttpclientpassword</b> の設定により当該の認証文字列を指定する代わりになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>remote-destination-url</b> は、コピーするファイルを置く URL (またはエイリアス) であり、標準の Cisco IOS ファイルシステムの HTTP 構文では次のようになります。</li> </ul> <p><b>filesystem</b> : [<i>filepath</i> ] [<i>filename</i> ]</p> <p>(注) <b>copy</b> コマンド使用時の URL 構文についての詳細は、「その他の参考資料」セクションを参照してください。</p>

## トラブルシューティングのヒント

リモート Web サーバーからのファイル転送に失敗した場合、次の点を確認します。

- ルータとインターネットとの接続はアクティブか。
- 正しいパスとファイル名が指定されているか。
- リモート サーバーがユーザー名とパスワードを要求しているか。
- リモートサーバーに非標準のコミュニケーションポートが設定されていないか (HTTP のデフォルトポートは 80、HTTPS のデフォルトポートは 443) 。

失敗したコピー要求の原因を判別できるよう、CLI はエラー メッセージを返します。コピープロセスについての追加情報は、`debugiphttpclientall` コマンドで表示できます。

## HTTP を使用したファイル転送の維持とモニタリング

HTTP 接続の維持と監視を行うには、次の作業を実行します。ステップ 2 から 4 は任意の順序で実行できます。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `show ip http client connection`
3. `show ip http client history`
4. `show ip http client session-module`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： <pre>Router&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show ip http client connection</b> 例： <pre>Router# show ip http client connection</pre>	アクティブな HTTP クライアント接続の詳細を表示します。
ステップ 3	<b>show ip http client history</b> 例： <pre>Router# show ip http client history</pre>	HTTP クライアントがアクセスした URL のうち最新の 20 を表示します。
ステップ 4	<b>show ip http client session-module</b> 例： <pre>Router# show ip http client session-module</pre>	HTTP クライアントで登録されたセッション（アプリケーション）の詳細を表示します。

## HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の設定例

### ファイル転送の HTTP 接続特性の設定：例

次の例に、全ユーザーの認証を行うリモートサーバーへの接続のために HTTP パスワードとユーザー名を設定する方法を示します。この例はまた、接続のアイドル時間制限を 20 秒に設定する方法も示しています。HTTP クライアントの接続待ち時間の上限は、デフォルトの 10 秒のままです。

```
Router(config)# ip http client connection idle timeout 20
Router(config)# ip http client password Secret
Router(config)# ip http client username User1
Router(config)# do show running-config | include ip http client
```

### HTTP または HTTPS を使用したリモートサーバーからのファイルのダウンロードの例

次の例に、ファイル c7200-i-mx をリモートサーバーから HTTP を使用してフラッシュメモリへコピーする方法を示します。この例はまた、ユーザー認証を行う HTTP サーバー用にコマンドラインからユーザー名とパスワードを入力する方法も示しています。

```
Router# copy http://user1:mypassword@209.165.202.129:8080/image_files/c7200-i-mx
flash:c7200-i-mx
```

### フラッシュからリモート HTTP サーバーへのファイルアップロードの例

次の例は、フラッシュメモリからリモート HTTP サーバーにファイルをコピーする方法を示しています。この例では、**copy** 特権 EXEC コマンドを使用したファイル転送で予期されるプロンプトと表示について示しています。

```
Router# copy flash:c7200-js-mz.ELL2 http://172.19.209.190/user1/c7200-js-mz.ELL2
Address or name of remote host [172.19.209.190]?
Destination filename [user1/c7200-js-mz.ELL2]?
Storing http://172.19.209.190/user1/c7200-js-mz.ELL2 !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
17571956 bytes copied in 57.144 secs (307503 bytes/sec)
```

## リモート HTTP サーバーからフラッシュメモリへのファイルのダウンロードの例

次の例は、リモート HTTP サーバーからフラッシュメモリへファイルをコピーする方法を示しています。この例では、**copy** 特権 EXEC コマンドを使用したファイル転送で予期されるプロンプトと表示について示しています。

```
Router# copy http://172.19.209.190/user1/c7200-i-mz.test flash:c7200-i-mz.test
Destination filename [c7200-i-mz.test]?
Loading http://172.19.209.190/user1/c7200-i-mz.test
.
.
.
11272788 bytes copied in 527.104 secs (21386 bytes/sec)
```

## HTTP または HTTPS を使用したリモートサーバーへのファイルのアップロード

次の例は、HTTP または HTTPS を使用してファイルをリモートサーバーにコピーする方法を示しています。

```
router#copy flash
: http:
Source filename []? running-config
Address or name of remote host []? 10.1.102.1 Destination filename [pilot-config]?file1
...
```

## その他の参考資料

ここでは、HTTP または HTTPS を使用したファイル転送に関する情報について説明します。

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
セキュア HTTP 通信	『 <i>HTTPS —HTTP Server and Client with SSL 3.0</i> 』
Cisco IOS 埋め込み Web サーバー	『 <i>HTTP 1.1 Web Server and Client</i> 』
Cisco IOS 組み込み Web クライアント	『 <i>HTTP 1.1 Client</i> 』

関連項目	マニュアル タイトル
ネットワーク管理コマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上の注意事項、および例	『Cisco IOS Network Management Command Reference』
コンフィギュレーション基礎コマンド：完全なコマンド構文、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト、使用上の注意、例	『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference』

## 標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	--

## MIB

MIB	MIB のリンク
なし	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、URL <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a> にある Cisco MIB Locator を使用します。

## RFC

RFC	タイトル
RFC 2616	『Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1』 R. Fielding 他
RFC 2617	『HTTP Authentication: Basic and Digest Access Authentication』 J. Franks 他

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

## HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: HTTP または HTTPS を使用したファイル転送の機能情報

機能名	リリース	機能情報
HTTP を使用したファイルのダウンロード	12.3(2)T	HTTP を使用したファイルのダウンロード機能により、HTTP サーバーから Cisco IOS ソフトウェアベースのプラットフォームにファイルをコピーすることができます。
HTTP を使用したファイルのアップロード	12.3(7)T	

機能名	リリース	機能情報
HTTP を使用したファイル転送	12.3(7)T	<p>HTTP を使用したファイル転送機能は、Cisco IOS <b>copy</b> コマンドおよびコマンドラインインターフェイスを使用して、リモートサーバーから使用するローカルルーティングデバイスへ、またはその逆の方向に、Cisco IOS イメージファイル、コアファイル、コンフィギュレーションファイル、ログファイル、スクリプトなどのファイルをコピーする機能を提供します。HTTP コピー操作は、FTP や TFTP など、他のリモートファイルシステムからのコピーと同じように動作します。</p> <p>これにより、HTTP または HTTPS を使用して Cisco IOS ソフトウェアベースのプラットフォームから HTTP サーバーへファイルをコピーする機能がサポートされます。</p>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。